

登録コード	J5040100	開講年度	2026				
授業科目	ミクロ経済学Ⅰ					担当教員	下平 勇太
英文授業名	Microeconomics Ⅰ					副担当	
単位数	4	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・4時限 水曜・1時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：1年/法：3年 (23カリは法：2年)
講義室	経法第2講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	経法20加						
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。					⇔	専門領域での基礎知識としてミクロ経済学の諸概念を正確に理解し、それを使って議論する力を身につける。
	経法23加 (2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済, 経法20加・応用経済						
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。					⇔	専門領域での基礎知識としてミクロ経済学の諸概念を正確に理解し、それを使って議論する力を身につける。
	経法23加 (2026改)・総合法律, 経法23加・総合法律						
	環境問題や、企業や行政の組織内において、日々生起する諸問題について、理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち、総合的に解決していくことのできる能力を身につける。					⇔	環境問題や企業及び行政の組織内で生じる問題について経済学分野の思考方法に基づき議論するため、ミクロ経済学の諸概念を正確に理解し、それを使って議論する力を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	ミクロ経済学は、2年次以降に学ぶ（近代）経済学の各分野の基礎を成す重要な科目である。本授業では、1年次前期の「ミクロ経済学入門」で扱った内容を数学的により厳密な形で発展させ、基本概念を正確に理解することを目指す。さらに、数学的な演習問題を解けるようになるだけでなく、ミクロ経済学の枠組みを用いて現実の問題を分析し議論できる力を身につける。 本授業は講義を中心に進むが、演習問題も課される。学習内容を確実に定着させるためにも、課題に積極的に取り組むことが重要である。						
(5)授業計画	第1回 経済学の原理と方法論（教科書第1-2章） 第2回 最適化（教科書第3章） 第3回 需要、供給と均衡（市場、買い手の行動、売り手の行動）（教科書第4.1-4.3章） 第4回 需要、供給と均衡（均衡）（教科書第4.4-4.5章） 第5回 消費者とインセンティブ（需要曲線）（教科書第5.1-5.3章） 第6回 消費者とインセンティブ（消費者余剰、需要の弾力性）（教科書第5.4-5.5章） 第7回 生産者とインセンティブ（供給曲線）（教科書第6.1-6.3章） 第8回 生産者とインセンティブ（長期競争均衡）（教科書第6.4-6.6章） 第9回 完全競争と見えざる手（完全競争と効率性）（教科書第7.1-7.3章） 第10回 完全競争と見えざる手（価格、公平性と効率性）（教科書第7.4-7.5章） 第11回 貿易（教科書第8章） 第12回 外部性と公共財（外部性）（教科書第9.1-9.3章） 第13回 外部性と公共財（公共財、共有資源）（教科書第9.4-9.5章） 第14回 政府の役割（税と規制）（教科書第10.1-10.2章） 第15回 政府の役割（政府の失敗）（教科書第10.3-10.5章） 第16回 生産要素市場（教科書第11章） 第17回 独占（市場支配力の厳選、独占企業の選択）（教科書第12.1-12.4章） 第18回 独占（価格差別）（教科書第12.5-12.7章） 第19回 ゲーム理論と戦略的行動（同時手番ゲーム、ナッシュ均衡）（教科書第13.1-13.4章） 第20回 ゲーム理論と戦略的行動（展開型ゲーム）（教科書第13.5章） 第21回 寡占と独占的競争（市場構造、寡占）（教科書第14.1-14.2章） 第22回 寡占と独占的競争（独占的競争）（教科書第14.3-14.5章） 第23回 時間とリスクのトレードオフ（時間選好）（教科書第15.1-15.3章） 第24回 時間とリスクのトレードオフ（リスク選好）（教科書第15.4-15.5章） 第25回 情報の経済学（逆選択）（教科書第16.1章） 第26回 情報の経済学（モラルハザード）（教科書第16.2-16.3章） 第27回 オークションと交渉（オークション）（教科書第17.1章） 第28回 オークションと交渉（交渉）（教科書第17.2章） 第29回 行動経済学（社会心理学的トピック）（教科書第18章） 第30回 まとめ（授業アンケート実施） 第31回 期末試験						
(6)成績評価の方法	演習課題（30%）、期末試験（70%）。演習課題はほぼ毎回課される。						
(7)成績評価の基準	演習課題、期末試験はいずれも、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価される。						

(8)事前事後学習の内容	・事前学習（毎授業前2時間）教科書の指定された範囲を読み，予習する。 ・事後学習（毎授業後2時間）演習課題に取り組みながら，授業内容を復習する。
(9)履修上の注意	「ミクロ経済学入門」および「経済数学A」を履修済みであることを前提とする。 授業中にインターネットを介して意思決定実験を行うことがある。その場合，インターネットに接続できる端末（スマートフォン，ノートPCなど）を持参する必要がある（事前に指示を行う）。
(10)質問,相談への対応	授業後，およびオフィスアワー（初回授業にて指示）にて対応する。
【教科書】	ダロン・アセモグル，ほか（2020）．ミクロ経済学：アセモグル/レイブソン/リスト，東洋経済新報社（電子書籍あり）．
【参考書】	授業中必要に応じて紹介する。